



小中学生が福祉の仕事に触れた「福祉の職場見学・体験ツアー」(5面に関連記事)



CONTENTS

- P2** ナカシマプロペラへ感謝の盾
- P4** 夏まつり 飲食も満喫
- P6-7** インタビュー企画 この人に聞く
- P8** くわのみどりの家 30周年記念誌

# 旭川荘 だより

vol.  
**281**

2024.9.1 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘  
〒703-8555 岡山市北区祇園866  
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640  
<https://www.asahigawasou.or.jp>



上海市で開催された「上海-岡山友好絵画展」開幕式(3面に関連記事)



ASAHIGAWA\_SO

## 上海—岡山友好絵画展に参加して

理事長 神崎 晋

7月30日から8月2日まで、旭川荘の障害児施設や上海市の特別支援学校の児童が出展する「上海—岡山友好絵画展」(きらめきは海を越えて2024)のために上海市を訪問しました。

旭川荘と上海市との交流は1985年から始まり、福祉分野の研修生や視察団の受け入れ、1990年から20回にわたる「福祉の翼訪中団」での障害者の訪中、JICAの支援による介護教員の育成など、上海市荣誉市民であった江草安彦元理事長を中心に数多くの交流事業を行ってきました。

障害者の絵画展は2019年に上海市で初めて開催し、翌年は岡山市で開催しました。新型コロナウイルスの感染の収束を経て上海市で5年ぶりに開催した今回の絵画展は、江草明彦氏が理事長を務める「みその児童福祉会」も参加し、「児童」にスポットを当てました。

会場には92点の絵画が並びました。上海の子どもがたくさん数字を描いた絵、中国の未来を描いた絵、日

本の子どもが大好きな家族を描いた絵、笑顔がいっぱい並んだ絵—それぞれに個性があふれ、見ているだけで作者の姿が目に見え、心が躍るようでした。

絵画は、視覚を介して直接私たちに語り掛けてきます。それには言葉の壁はありません。中国人の絵画から日本人が、また日本人の絵画から中国人が、素直に感銘を受けることができます。また障害児の絵画には私達の想像を超えた表現力があることは周知のことです。したがってこの絵画展は、多くの方に感動を与え、成功裏に終わらさう。そのように確信しました。

開幕式には上海市政府や支援学校、日本総領事館の幹部など60人もの人々が参加しました。このような強い絆は、一朝一夕に作れるものではありません。先人たちの歩みを胸に、次の時代の友好関係を作っていきたいと思えます。

「水を飲むときには、井戸を掘った人を忘れるな」(周恩来)

## 清掃活動50回 ナカシマプロペラへ感謝の盾

ナカシマプロペラ株式会社(岡山市東区上道北方)による旭川荘祇園地区の清掃奉仕活動が、5月に行われた活動で50回となりました。その節目にあたり、長年にわたる清掃奉仕活動に対し6月27日、同社に感謝の盾を贈りました。

この日、ナカシマホールディングス株式会社の社屋(岡山市北区中島田町)で行われた贈呈式には、同社の中島基善代表取締役社長、中島康博専務取締役、旭川荘から神崎晋理事長、中町真也環境福祉委員会委員長らが出席。神崎理事長が「皆様のご尽力のおかげで、快適に過ごせる環境が整えられています」と謝意を述べ、感謝の言葉が刻まれたガラス製の盾(約縦20×横12センチ)を中島社長へ贈りました。

清掃奉仕活動は、中島社長の父で同社前名誉会長の故・中島保氏が、岡山南ロータリークラブの会長を務めていた1995年5月、社会奉仕活動の一環として社員や家族に声掛けをして始まりました。翌年からは同口

ロータリークラブの会員や関連企業にも広がり、多い時には約700人が参加。2001年からは年2回の清掃をご提案いただき、5月の活動とは別にナカシマプロペラの皆さんが11月にも清掃活動を行っています。



中島社長(左)へ神崎理事長から感謝の盾が贈られた

## 5年ぶりに上海市で 「上海—岡山友好絵画展」開催

中国・上海市において、7月31日から8月12日まで「きらめきは海を越えて2024 上海—岡山友好絵画展」を開催し、旭川荘や上海市の障害児らの絵画を一堂に展示しました。

上海市と旭川荘の絵画展は、2019年に上海市の呉昌碩記念館で、2020年に岡山市の天神山文化プラザで開催しました。その後新型コロナウイルスの流行を経て、このたび上海市人民対外友好協会から開催の打診があり、実現に至りました。

今回の絵画展は、呉昌碩海派芸術センター(上海市静安区)で開催。日中両国で少子高齢化が進行する中、一般の子どもだけでなく、障害のある子どもや児童福祉施設で生活する子どもも社会の中に包摂され、元気に活躍でき



色彩豊かな絵が並ぶ展示会場

る「共生社会」を目指すことをテーマとしました。

日本側からは、旭川学園、津島児童学院、カレッジ旭川荘のほか、児童の絵画活動に力を入れている社会福祉法人みその児童福祉会も参加し、計42点の作品を出展しました。上海市側は、前回も出展した浦東新区補読学校、普陀区啓星学校のほか、上海市第一聾啞学校など静安区所在の特別支援学校が47作品を出展しました。

また特別出展として、上海日本人学校虹橋校の特別支援学級「虹の子学級」が作品1点を出展したほか、旭川荘の江草安彦理事長が名誉顧問を務めた上海市児童福利院も2点を出展。額装は三井住友海上火災保険(株)および東レ(株)の現地法人の協力を得て行いました。

7月31日に開催された開幕式には、日中両国の関係者約60人が参加。日本側からは旭川荘の神崎晋理事長、みその児童福祉会の江草明彦理事長、岡山市日中友好協会の黒住昭子副会長ら7人が出席し、神崎理事長は「数年ぶりに絵画展を開催できて嬉しく思っています」とあいさつ。上海市人民対外友好協会の傳継紅副会長は「児童福祉に社会の関心が一層集まることを期待したい」、在上海日本国総領事館の竹中恵一副総領事は「日中友好の原動力となることを願っています」とそれぞれ述べました。

絵画展には会期中約400人の観客が訪れ、盛況のうちに閉幕。今年11月下旬には加計美術館(倉敷市)で巡回展を開催する予定です。

## 上海市民政局長が旭川荘を訪問

中国・上海市民政局の蔣蕊局長ら6人が6月25日に旭川荘を訪れ、旭川敬老園などを見学しました。上海市民政局長の来荘は、2009年の馬伊里局長(当時)の訪問以来15年ぶりとなります。

旭川荘と同局との交流は1985年から始まり、以後毎年のように研修生や視察団を受け入れるなど交流を続けてきました。2019年に旭川荘の代表団が同局を訪問した後、新型コロナウイルス感染症の蔓延で交流が一時ストップしていましたが、感染の収束を機に再開しました。

蔣局長は2014年に上海市民政局の副局長に就任し、介護人材の養成や障害者雇用の推進などについて数回にわたり旭川荘と対話を続けてきました。2021年に局長に昇任し、今回初めて旭川荘を訪問しました。

一行は敬老園と旭川荘療育・医療センターを視察。敬



敬老園を見学する蔣局長(手右)

老園では、上海市の老人ホームの人員や設備の基準の参考とするため、日本の基準について熱心に質問していました。また、療育・医療センターでは、建物の設備やケア方法の細かな部分まで障害者への配慮が及んでいることに深く関心を寄せていました。

## 花火に加え飲食も満喫 夏まつり旭川荘

第42回「夏まつり旭川荘」が8月22日、祇園地区で行われ、利用者らが打ち上げ花火やキッチンカーによる飲食の提供により夏のひとときを満喫しました。

夏まつりは例年7月に開催していますが、猛暑が続き外での活動が制限されることなどから、1カ月繰り下げて実施。コロナ禍による中止を経て2022年、2023年は打ち上げ花火のみを行いました。今年さらには利用者にまつり会場で飲食を楽しんでもらおうと、キッチンカーを招きました。



たこ焼きや唐揚げなどさまざまなメニューのキッチンカーが並ぶ

この日はむすびの園周辺に、8台のキッチンカーが並び、唐揚げ、焼きそば、クレープ、かき氷、プリンなどを販売。利用者は学生ボランティアや職員らと一緒に列に並び、たくさんのメニューの中から思い思いにお祭りグルメを堪能しました。提灯が吊るされたむすびの園の休憩スペースでは、購



むすびの園の周辺にはお祭りグルメの購入を待つ利用者らの列ができた

入した物を味わったり、談笑したりしてゆっくり過ごす人もいました。

日が落ち辺りが暗くなった午後7時半から花火がスタート。約20分の間に588発が次々に打ち上げられ夜空を彩りました。



夜空を焦がす大輪の花火

## 岡山操山中生徒がうちわ寄贈

岡山県立岡山操山中学校(岡山市中区浜)の生徒の皆さんから7月25日、手描きの絵柄のうちわを約350枚寄贈していただきました。

うちわは同校の課外活動グループ「SOZAN国際塾」が中心となって全校生徒に呼び掛け1人1点作製したもの。美術の授業を使って取り組んだほか、その後自宅に持ち帰って彩色などを続ける人もいて、1カ月ほどかけて完成した作品もあります。夏をイメージする花火や金魚、すいかなどが色彩豊かに描かれ、もう片面の「祭」の文字もカラフルにアレンジされています。

この日、引率の下山郁子副校長らと国際塾のボランティアを代表して3年の國富千桜さんと菱川萌花さんが旭川荘を訪れ、夏まつり実行委員会委員長の秋山哲生常務理事らにうちわを



うちわを手に持つ生徒ら

手渡しました。秋山常務理事は「毎年心のもった作品をうちわに託して利用者に夏を届けていただき感謝しています。大切に使用させていただきます」とお礼を述べました。



丁寧に彩色されたうちわ

同校からの寄贈は2014年から行われ、今年で11回目。「夏まつり旭川荘」の開催に合わせてうちわをいただいでいて、コロナ禍で夏まつりが開催中止になった2020年度は千羽鶴とメッセージカードを届けてくださるなど、毎年続けられています。

國富さんは「施設の人が元気になるべと、明るい色で昔懐かしい屋台を描いた。夏まつりの後も飾って、楽しんでもらえたらうれしい」と話しました。

いただいたうちわは祇園地区の施設へ配られ、とても好評でした。

## 灯籠並べて夕涼み かわかみ療護園で「幻想庭園」

かわかみ療護園で7月17日、利用者や職員が手作りの灯籠で園庭を彩るライトアップイベント「幻想庭園」を行いました。毎年秋の行事として11月に企画していますが、今年度は夕涼みを兼ねて夏に繰り上げて開催しました。

開催日前は連日雨が続き、延期にするかと気をもみま



中庭で灯籠の灯を観て楽しむ利用者

したが、当日には雨もやみ、夕暮れに鳴くセミの声を聞きながら約100基ある灯籠のろうそくに火を灯しました。灯籠の模様によっ

て、地面に映し出される光と影の形が異なり、園庭を照らす灯も時間の経過とともに変化。秋の開催では夜間の寒さもあり窓越しでの観賞でしたが、多くの利用者が中庭に出て、幻想的な眺めを間近で楽しみました。

また今回は、噴き出し花火も実施。七色の炎を上げて噴き上がる花火に大歓声上がり、利用者も職員も童心に帰って夏の夜のひとときを満喫しました。

(かわかみ療護園 川本真弓)



日が暮れるにつれて浮かび上がる灯籠の模様

## 小中学生が福祉のお仕事体験 利用者と卓球バレーなど楽しむ

岡山県内の小中学生を対象にした「福祉の職場見学・体験ツアー(フクシラボおかやま)」が8月8日に旭川荘祇園地区で行われ、参加した子どもたちが施設見学や介助体験などを通して福祉について学びました。

同ツアーは岡山県と県社会福祉協議会が毎年夏休みに実施しており、祇園地区で見学・体験を受け入れるのは4回目。小学生4人、中学生5人の計9人が参加し、貸し切りバスに乗って来荘しました。

一行は最初に吉備ワークホムの利用者が、箱折りや水道メーターの分解作業に取り組む様子を見学。モノづくり体験として、各自好きな色のイノシシ革の端材を選んで、オリジナルのキーホルダーを作りました。

次に訪れた竜ノ口寮では、職員の説明を受けながら、



車いすの介助方法を学ぶ参加者



グループワークの後は質問タイムもあり、職員が仕事のやりがいなどについて話した

床走行リフトを使ってベッドに横たわる人を車いすへ移乗する介助を体験。車いすにも試乗し、少しの段差やスロープでも乗っている人は不安を感じるため、介助の際には声掛けが必要なることを学びました。また、両施設の利用者と卓球バレーで交流。子どもたちは利用者チームの強打に防戦一方でしたが、徐々に要領を掴むと粘り強くレシーブで反撃。得点が決まると笑顔を見せていました。

午後のグループワークでは、今回の見学・体験で感じたことを付箋に書き出し、テーマごとに整理して発表。「みんなで協力して作業をしていた」「スタッフの方と利用者さんの仲がいい」「生活の支援だけでなく、スポーツもして楽しく暮らせるようにしていたのがすごい」などの気付きをみんなで共有し、理解を深めました。

# この人に聞く

第3回

旭川学園 生活支援員  
まるの ひろき  
丸野 洋樹さん

旭川荘で働いている職員へのインタビュー企画「この人に聞く」。第3回は、2022年より旭川荘と人事交流事業を行っている国立重度知的障害者総合施設のぞみの園（群馬県高崎市）で2023年4月から2024年3月まで1年間勤務した、旭川学園の丸野洋樹さんに、出向先での仕事内容や今後旭川荘での支援に取り入れたいこと、伝えたいことなどを聞きました。

聞き手／後藤友美（たかはし松風寮）

## Q のぞみの園に出向された経緯は？ 配属先はどんなところでしたか？

**A** 当時の旭川学園の園長より、人事交流の話があるが行ってみたいかという話をいただきました。県外で生活したことがなかったので、そんなチャンスは今後もうないと思い、即決で返事をしました。当時はのぞみの園がどんなところかよく知らなかったのですが、実際にのぞみの園で働かされている職員の話を知り、うちにイメージを持つことができました。

配属先は、強度行動障害・高齢（医療的ニーズの高い方）・地域生活ホームの中から、強度行動障害の棟を希望しました。強度行動障害は、基礎研修やフォローアップ等、座学で学んではいたものの、のぞみの園のような激しい行動障害のあるケースを担当する機会はなかったので、旭川学園でも活かせる貴重な経験ができ、学びになると思いました。

## Q 実際、現場に入られて大変だったこと、感じたことなどを聞かせてください。

**A** のぞみの園は全国から特に支援度の高い方をお受けし、2年という有期限の中で行動改善を図り、期限後は地元や元の施設に移行していく施設です。私が担当した方は自傷行為が激しく、ドアや壁に激しく頭突きをするといった課題を持たれていました。のぞみの園では支援のコンサルタントにも入ってもらいながら、スタッフ間で支援の在り方や支援方法について協議し、課題を解決するため必要となる必要の支援を入れながら業務にあたっていました。

実際の支援だけでなく、課題行動が起きた時間や場面などのデータを細かくとって分析した資料作り、行政・家族と連携しながらの移行に向けた調整など、旭川学園では経験したことのない業務もあり、正直大変でした。

ただ、大変な中でも支援が当てはまり、課題行動が減少した時には、支援者としての手応えややりがいを感じ、成長につながったと思えました。任されたケースに関しても、支援の中で自傷行為が減ったと感ずることができ、貴重な経験となりました。



丸野洋樹さん  
2015(平成27)年入職。ひだまり苑で勤務した後、2019年に旭川学園へ。2023年4月から1年間のぞみの園へ出向する。

## Q 今回の出向を終えて伝えたいこと、実際の現場に活かしていきたいことを教えてください。

**A** 支援を行う中で統一した支援を行うことが大事であり、一番難しいところでもなと思っています。誰がみても同じように支援ができるよう、のぞみの園で使っていた支援手順書のフォーマットを参考に、旭川学園でも支援手順書を作り職員間で共有しています。見通しが持てるようなスケジュール提示、視覚的支援といった基礎的な支援を取り入れることで、ASD(自閉スペクトラム症)の障害特徴である見通しの持てなさからくる不安は減少できると思っています。

ASDの方に安心して生活を送ってもらう支援の組み立てにはASDの基礎的な知識があってこそ、と実感し、出向先で学んだことを取り入れ、周りの職員にも伝えていきたいと思っています。既存の支援のやり方にとらわれる

ことなく、ご利用者の安定のために必要なところに必要な支援を、スピード感をもって取り入れていくことが大切です。職員間の気持ちも変えていきたいと思っています。

### Q 出向を終えて率直な感想、今後の方へのメッセージを。

A 1年間という期限があったから頑張れた部分もありますが、あっという間でした。外から旭川荘を見ることができ、自分の職場と比べながら、客観的に良かったところ、変えていかなければと思うところも感じられる良い機会となりました。盗めるものは盗んで、これから旭川学園でもやってみようという気持ちです。他から吸収できる貴重な経験だと思うので、興味のある方はぜひ行ってほしいです。



後藤委員のインタビューを受ける丸野さん

### 取材 こぼれ話

「のぞみの園は高台にあって、(職場から)帰宅するときには眼下に前橋や埼玉の方まで関東平野が見渡せ、浅間山、谷川岳といった雪山も見える。景色が岡山と違い過ぎて、とにかく新鮮でした」と話す丸野さん。休日には群馬県の名湯を巡ったり、東京、新潟、長野、軽井沢に足を伸ばしたりと、大変な業務の中でもオフを満喫されていたそうです。

職場の雰囲気もよく、上司や先輩ともコミュニケーションが取れ、仕事をしやすい環境だったとも。

年齢の近い同僚もいて、ご飯にいたり、休日と一緒に過ごしたり…。今でも連絡を取り合うなど良好な関係を築かれているようです。

インタビューの間も終始いきいきとした表情で当時は振り返り、新しい環境を前向きにとらえ挑戦されていた印象を受けました。今回学ばれたことを今後の旭川学園の業務においても、スタッフ間で引き継ぎ、より良い支援につなげてくださると感じました。

## リレーコラム

### 南海トラフ巨大地震に備えて

4月17日23時14分、豊後水道を震源とするマグニチュード(M)6.6の地震が発生しました。愛媛県でも最大震度6弱、南愛媛病院・南愛媛療育センターのある鬼北町でも震度5弱を観測しました。私が今までに経験したことのない大きな揺れが突然やってきました。地震発生時は自宅にいましたが、揺れ始めてから揺れが止まるまでの間の恐怖は今でも鮮明に覚えています。

揺れが止まると、自宅の被害はなかったのですがすぐに職場に向かいました。途中の道路はアスファルトにひびが入ったり、車のタイヤと同じくらい大きさの岩が山から落ちてきていたりと通行するのに危険な場所もありました。職場に着くと建物内を巡回して被害状況を確認し、割れたガラスの片づけや緊急停止したエレベーターを復旧するため業者へ連絡して帰りました。

翌日は外回りの被害状況と建物の中を再度確認しました。床に大きなひびが入っている部屋と、天井に取り

付けている器具の破損、駐車場のアスファルトが割れて一部沈下している場所も。地鳴りと余震は翌日以降もしばらく続きました。

また、8月8日には日向灘を震源とするM7.1の地震が発生。気象庁は南海トラフ巨大地震への注意を促す臨時情報を初めて発表しました。南海トラフ巨大地震はM8～M9クラスとされ、今回の地震とは比べ物にならないほど大きな地震です。南愛媛療育センターは福祉避難所に指定されているため、外部からの受け入れも考えなくてはなりません。今のうちに対策できることや準備できる物を確認して、大きな地震に備えたいと思います。

(広報委員 青儀修平)



## 創立30周年で記念誌作製 くわのみどりの家

くわのみどりの家はこのほど「創立30周年記念誌 くわのみどり」を作製しました。20周年から10年間の活動について写真を交えて振り返っています。

くわのみどりの家は1993(平成5)年6月、岡山ふれあいセンター(岡山市中区桑野)開館時に、岡山市から身体障害者デイサービス、障害児通園事業、療育相談の3事業の委託を受け開設。以来、福祉制度の改正やニーズの変化に応え、事業形態を変えながら、地域の障害者、高齢者、障害児向けのサービスを展開してきました。本年度からは児童発達支援事業に特化し、就園・就学前の発達障害児を対象にした療育、家族への支援を行っています。

記念誌はデイサービスセンター(通所介護・介護予防通所介護事業、22年3月末で終了)や地域活動支援センターⅡ型(24年3月末で終了)などの事業の変遷について触れながら、書道やカラオケ、グラウンドゴルフといった多彩な講座や日帰り旅行を楽しむ利用者の姿を、多数の写真で紹介。各講座で製作した絵手紙や焼き絵、俳句などの作品も掲載しています。

また児童発達支援事業「くわのみ園」の療育・支援内容、活動の様子を伝えるページもあり、母子通園を経験した保護者からのメッセージも載せています。

A4判、32ページ。200部製作。荘内外の福祉関係者などに配布しました。



くわのみどりの家の30周年記念誌

### 旭川荘採用情報

正職員採用試験を下記の日程で行います。新卒の方のほか、社会人の方も募集しています。奮ってご応募ください。

試験区分: 新卒者、社会人

募集期間: 9月6日(金)~10月9日(水)

試験日: 一次試験10月19日(土)、

二次試験11月9日(土)

最終合否発表: 11月下旬

採用予定日: 令和7年4月1日

(社会人は令和7年1月1日以降)

詳しくは旭川荘採用サイトをご覧ください。なお、高卒採用、障害者枠採用も別途実施いたしますので、詳細についてはサイトをご覧ください。



旭川荘採用サイト

## 宮脇書店で「ふくのいち」 10事業所の製品販売

旭川荘の利用者が携わった製品を販売する「ふくのいち」が、8月10日から宮脇書店総社店(総社市井手)で行われています。開催は9月16日まで。

吉備ワークホームやあおば、いづみ寮など10事業所が参加し、約70種類の製品が特設スペースにディスプレイされました。布や革の製品、木工製品、陶器、アクセサリなど自慢の逸品を取り揃えています。中でも材料にこだわったクッキーやマドレーヌなどの菓子類、レーザー加工でユニークな絵柄を付けた檜のキーホルダーを販売するガチャは人気で、追加で納品されました。また、今回はジャガイモやカボチャなど収穫したばかりの新鮮な野菜も並び好評でした。

ふくのいちは同店の協力により2018年に始まり、2020年はコロナ禍で開催を見合わせましたが、以降は毎年継続。今回で6回目となります。



製品がおしゃれにディスプレイされた特設スペース



### 編集後記

新型コロナが収束しつつある中、旭川荘でも国際交流が再開しました。私も久々に上海やベトナムを訪問し、「老朋友=古い友達」に会えた嬉しさは格別でした。しかし、帰国後しっかり新型コロナ陽性に…。気を引き締めながら、高齢・障害・児童福祉など様々な分野での国際交流を進めたいと思います。(広報室長 小幡篤志)